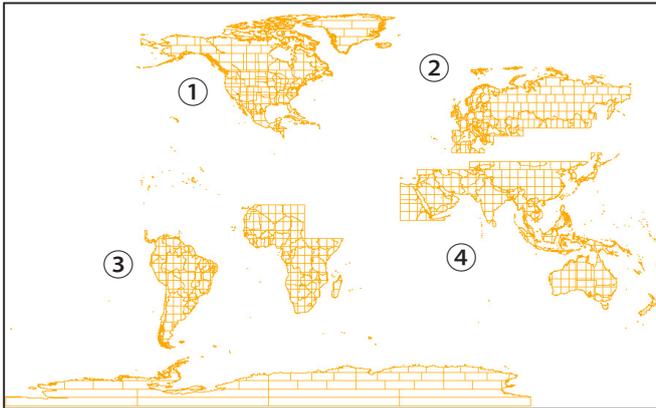
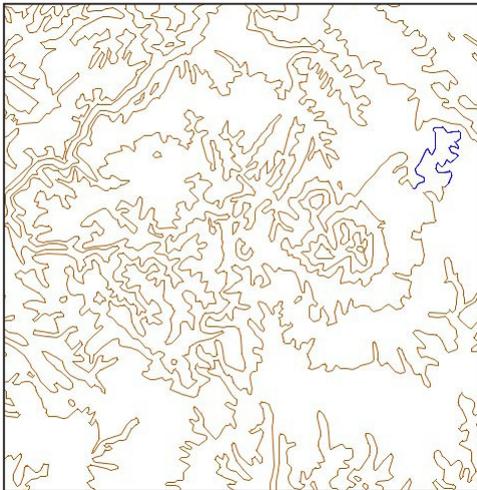


# VMap0 からグローバルなデータセットを作る

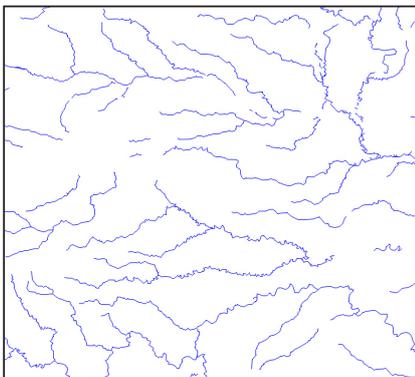
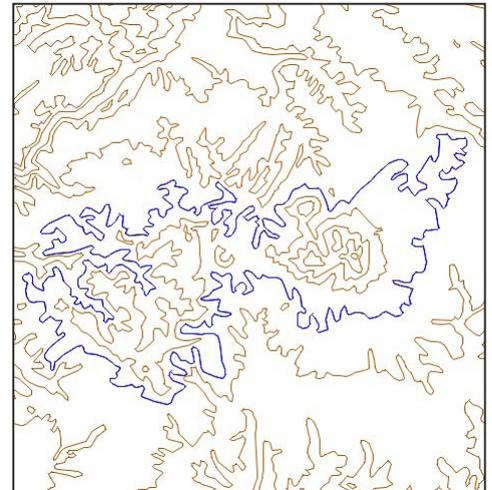
TNTmips にインポートした直後の VMap0 のデータは地図データとして使うにはあまり適していません。4 つに分割されているため、その継ぎ目の領域を参照したい人には不便でした。主題としているデータに格子線が含まれていることもありました。主題データはポイント、ライン、ポリゴン、ラベルの単独データで構成されていて、複数の要素を同時に持つことはありませんでした。例えば、等高線などの本来連続するラインは、多数のセグメントに分割されていました。各セグメントにはそれぞれ個別の属性レコードがアタッチされていました。こうした問題点等は VMap0 データを WorldMapFeatures グローバルデータセットへ変換することで解決されました。



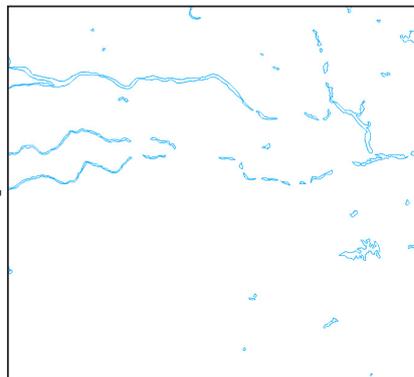
2,3 の主題図データには、GIS システムにおいては紛らわしくて unnecessary な格子線が含まれています。四分割されているデータ (左図) を一つのベクタオブジェクトにマージした後 (右図)、[ポリゴンのディゾルブ (Dissolve Polygons)] フィルタを使って格子線を削除しました。



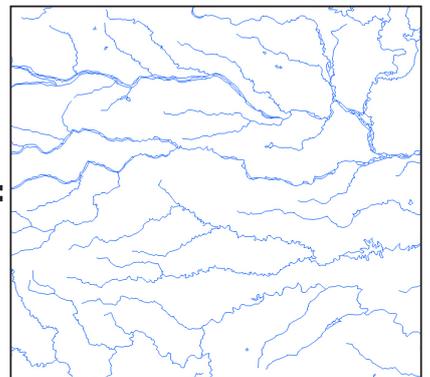
ライン属性を持った主題データは全て、等高線のように論理的に連続していますが、重複のない ID 番号のついた多くのセグメントに分割されています。右図の WorldMapFeatures グローバルデータセットにおいて選択したひとつつながりの 1 本の等高線 (青色) は、左図の VMap0 では 17 本のラインに分かれており、そのうちの 1 本がこの図では表示されています。これらのラインを統合するために、ラインセグメントに個別に割り当てられている属性をデータベーステーブルから削除して、[過剰ノードの削除 (Remove Excess Nodes)] フィルタが適用されました。重複したレコードもテーブルから取り除かれました。等高線のテーブルのレコード数は 1,099,573 個から 419 個に減りました。ライン数も 1,099,573 本から 655,769 本になり、約 40% 減少しました。



+



=



VMap0 では同一テーマのデータにラインとポリゴンの両方を含まないため、水系のレイヤは一本線の河川に切れ目があったり (左図)、孤立した湖や二条線の河 (中央の図) によって河川が離れ離れになっています。これらの 2 つのオブジェクトをマージして、連続した水系データを作りました (右図)。ポリゴン属性を周囲の境界線に変換するのに SML スクリプトが使われました。ラインだけが選択できるので描画速度が速くなり、ラインデータに対してもデータチップが表示できるようになりました。